

平和のリレー

— 戦争を知る世代から知らない世代へ —

終戦から78年がたとうとしていますが、今なお世界中のあらゆる地域で争いが発生し、武力による脅威が絶えることはありません。

知る世代から知らない世代へ、戦争の恐ろしい記憶と平和への願いを込めたバトンを渡していくことが、平和な未来へつながっていくものと信じています。

今回の特集では、戦争を経験した方のお話と、この夏に広島平和記念式典に参加する中学生に話を聞きました。

↑ 平和をいつまでも守り続けていってほしい ↓



富士見町 安藤 忠雄さん (90歳)

私は昭和7年、香川県の金刀比羅宮近くの村で生まれました。物心つく頃には、日本は戦争に突入り、子どもの頃は戦争とともに育ったという印象です。

年齢的に幼かったため戦争には行っていませんが、3人の兄はみな出征し国のために戦いました。戦争が続けば私も戦争に行かなければなりませんので、銃剣の練習をしましたし、戦争に勝てるように「こんびらさん」に戦勝祈願に行かされました。生活は苦しく、食べるものや着る服もままならない状況でした。家は農家なのに収穫した米は接収され、配給

として米をもらっていました。

昭和18年頃になると、四国で本土決戦が行われるという情報があり、満州に渡っていた軍事物資が私の村に集まってきました。村を流れる川の両岸には、物資が山のように積まれ、その光景が今でも目に焼き付いています。

戦後になっても生活の苦しさは変わりませんでした。お金がなかったので進学することは叶わず、大阪の町工場に住み込みで働くことになりました。縁あって昭和36年には小山市の工場で働くことになり、結城に越して現在に至ります。退職後は、区画整理組合や民生委員・児童委員での活動をとおして、市の発展に貢献してこれたと思います。

貧しい生活をしていたので、今でも「捨てる」ということがなかなかできません。使えなくなったものも別の用途に使えないだろうかと再利用することを考えます。私が若いころは、様々なことが統制されていたため、良い悪いではなく決められたことをしなければならぬ時代でした。今の若い皆さんは、物事を自分で判断することができます。色々な経験を積んで自分の意志で世界に羽ばたいていってほしいと思います。

昔に比べれば、結城も随分立派なまちになりました。平和であったからこそその発展だと思います。この平和をいつまでも守り続けていってください。

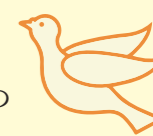
原爆死没者慰霊と平和祈念のために黙とうを



核兵器廃絶平和都市宣言碑 (市役所)

日本は原子爆弾(原爆)が投下された世界で唯一の国です。このような悲惨な出来事が二度と繰り返されないよう、結城市は昭和62年に「核兵器廃絶平和都市」を宣言しました。核兵器の廃絶と世界平和を願い、広島市と長崎市への原爆投下時刻と終戦の日に、1分間の黙とうにご協力をお願いします。

- 日時 8月6日(8:15) / 8月9日(11:02) / 8月15日(12:00)
- 問合せ先 市秘書課 ☎34-0309



被爆地「広島」で戦争と平和を学んできます

結城中2年 大塚 航聖さん

今、戦争で悲しい思いをしているニュースを見て、平和とは何かを考えさせられました。

自分が今こうして普通に生活していることが平和だと思います。この平和を保つために今、自分ができることが、実際の場所に行つて知ることだと思ったのです。



結城中 大塚さん、小林さん

結城中2年 小林 美幸さん

原爆が投下された時、広島の人は何を思ったのでしょうか。私には分かりません。ただ一つ言えるのは、唯一の被爆国である日本に住む私たちはこの歴史を忘れてはならない、ということです。

平和式典に参加することで、平和の尊さ、戦争の恐ろしさを広めていきたいと思っています。

結城南中2年 永木 愛理さん

私は戦争の話教科書やテレビでしか見たことがありません。だから、戦争の被害はどんなものだったのか、当時の人はどんな暮らしをしていたかなどを、実際に経験した人に聞いてみたいです。

同じ過ちを繰り返さないためにも、どう行動すべきかを考えるきっかけにしたいです。



結城南中 永木さん、久保谷さん

結城南中2年 久保谷 颯さん

私は、復興した広島が、世界の未来の象徴になると思っています。だからこそ、今回の学習を通して原爆のことについてもっと知ってみたいと思いました。

この学習で学んだことを、友達や家族、学校に人たちに広め、これからあるべき未来の在り方を考えてもらいたいと思います。

結城東中2年 阿良山 颯希さん

戦争は絶対にしてはいけないと思います。理由は相手を傷つけるし、相手の心を傷つける武器ではないからです。

けがは治るが心は二度と治ることがなく、ずっとその恐怖を抱えながら生きていくことになるからです。戦争のない平和な地球をつくっていくことが大切だと思います。



結城東中 阿良山さん、田沼さん

結城東中2年 田沼 実優さん

私のひいおばあちゃんは、広島市の被爆者ということもあり、広島市の歴史や戦争、原爆の怖さについて深く知りたかったです。

小学生の頃、広島に行ったことがあります。その時はまだ理解できなかったことを、中学生になった今、詳しく学び、深く知りたかったです。